



解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で  
読解力アップ!

## ワークシート

# 広がる無加温ハウス栽培

物価高  
ショック

原油価格が高騰する中、暖房を使わずに厳冬期にビニールハウスで野菜を育てる技術が上川管内でも広がっている。ハウス内にフィルムを幾重にも張る「無加温ハウス栽培」という方法だ。冬場も低成本で安定出荷でき、消費者にとっても道産野菜を手頃に購入できるようになると期待される。道立総合研究機構上川農試（比布町）は「栽培規模に合わせて導入を検討してほしい」と、ホームページ（HP）で栽培マニュアルの公開を始めた。

（小林史明）

## 低コストで安定出荷 上川農試マニュアル公開

無加温ハウス栽培は、上川農試と道南農試（北斗市）で2013年度に研究を開始。前年度の秋、ハウスで枯れずに越冬したベビーリーフを見つけたのがきっかけだ。冬場も低成本で安定出荷でき、消費者にとっても道産野菜を手頃に購入できるようになると期待される。道立総合研究機構上川農試（比布町）は「栽培規模に合わせて導入を検討してほしい」と、ホームページ（HP）で栽培マニュアルの公開を始めた。

上川農試が13～15年度に比布町で行った実験では、ハウス内に筋交いやトンネル型など4層のフィルムで覆い、温度を調べた。最も寒い日の平均外気温は氷点下26度だったが、ハウス内は最高で氷点下3度以上に上昇。作物の糖度は夏よりも冬に栽培した方が高かった。その後の研究で、9～10月に種をまいて一定サイズまで育て、12月～翌年2月は適温で鮮度を保ちながら収穫するという栽培周期を考案。栽培限界气温は、氷点下10度までならベビーリーフ、同じ度はコマツナ、同5度はリーフレタスやチングンサイーといった品目別の耐寒性も分類した。

上川農試によると、道内では100戸以上の農家が無加温ハウス栽培を導入。

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

## 冬場の野菜作り 暖房要らず

無加温ハウス栽培は、上川農試と道南農試（北斗市）で2013年度に研究を開始。前年度の秋、ハウスで枯れずに越冬したベビーリーフを見つけたのがきっかけだ。冷蔵庫に入ったような状態となり、寒さで生育が止まる特性に着目した。

上川農試が13～15年度に比布町で行った実験では、ハウス内に筋交いやトンネル型など4層のフィルムで覆い、温度を調べた。最も寒い日の平均外気温は氷点下26度だったが、ハウス内は最高で氷点下3度以上に上昇。作物の糖度は夏よりも冬に栽培した方が高かった。

その後の研究で、9～10月に種をまいて一定サイズまで育て、12月～翌年2月は適温で鮮度を保ちながら収穫するという栽培周期を考案。栽培限界气温は、氷点下10度までならベビーリーフ、同じ度はコマツナ、同5度はリーフレタスやチングンサイーといった品目別の耐寒性も分類した。

上川農試によると、道内では100戸以上の農家が無加温ハウス栽培を導入。

管内では美深町で盛んなほか、東川町や東神楽町などでも多くも10戸が取り組んでいるという。夏にコメや大豆を作る旭川市の国枝信彦さん（41）は、17年度から冬にホウレンソウとケールを20畳ほど栽培し、首都圏のスーパーなどで販売。

（夏より高単価で安定して出荷でき、冬場も1人の雇用につながった）と手応えを感じている。

無加温ハウス栽培を研究してきた上川農試の高浜雅幹主査（45）は「暖房の燃料コストが不要になり、道外産が多くたる冬野菜を消費者も安く買える」と、さらなる広がりに期待する。同農試HPで、各品目の栽培方法やハウス管理などのマニュアルを閲覧できる。

一方、導入には課題もある。ハウス資材の追加購入には、10畳当たり数十万円の初期投資がかかり、冬場の輸送ルートや販路確保も求められる。高浜主査は経済効果や温室内ガス削減といったメリットもPRし、行政や他産業が冬の野菜生産に取り組む機運が高まれば」と語る。

（高浜雅幹主査）

（④厳冬期にビニールハウスで実験栽培したコマツナ＝昨年1月（上川農試提供）



(1) ■とありますが、「無加温ハウス栽培」とはどのような栽培方法ですか、簡単に説明しなさい。

(2) 「無加温ハウス栽培」には、生産者にとってどのようなメリットがありますか。

(3) 「無加温ハウス栽培」の導入には、どのような課題がありますか。

（北海道新聞） 2022年8月24日（水）朝刊（旭川・上川版）